同友会三つの目的
「よい会社、よい経営者、よい経営環境をめざす」

①同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強靭な経営体質をつくることをめざします。

おきなわ同友会しんぶん
ニライ みらい

2017年（平成29年）10月号
No. 355
発行：沖縄県中小企業家同友会
編集：広報委員会
〒901-0152
沖縄県那覇市字小禄1831番地1　沖縄産業支援センター603号
☎098-859-6205(代)　FAX.098-859-6208
http://www.okinawa.doyu.jp
E-mail:doyu@okinawa.doyu.jp

21世紀に輝く No.168

沢山の大人と共に子どもを支える「大きな輪」を！

趣味はマラソン ―走ることが生活の一部！

美ら島法律事務所　弁護士　横江（よこえ）　崇（たかし）氏

昨年四月、沖縄で初となる子どもシェルターが開設されました。その中心となり、沖縄の子どもたちの人権擁護のため活躍されている横江崇弁護士にお話を伺いました。

東京出身の横江さん、司法試験合格後、司法修習生として沖縄で一年を過ごすうち、沖縄の人と文化に魅了され、沖縄で開業することを決断します。二年半の勤務弁護士時代を経て、二〇〇六年に那覇市泉崎に美ら島法律事務所を開設しました。現在、弁護士二名事務局三名体制で、離婚・相続・労働・交通事故・債権回収・企業法務等の一般民事事件や少年事件を含む刑事事件を取り扱っています。

弁護士登録後すぐに弁護士会の子どもの権利委員を任されたことを契機に、全国の事例を知る機会に恵まれ、虐待・非行・いじめなど子どもに関わる問題の専門的知識を深めてきました。一方で、沖縄では子どもの問題を扱う弁護士が少なかったことから、「沖縄では、自分がやろう！」という気概が生まれました。NPO法人子どもシェルターおきなわ（虐待、非行、貧困等の理由により居場所を失った子どもへ居場所の提供・支援・権利擁護を行う。）の理事長を務めるほか、不登校の子ども達の支援にも関わっています。これからも子どもの問題をライフワークとして取り組んでいきたいと考えています。

同友会入会は二年ほど前。子どもシェルターの設立にあたり、企業への周知や支援の要請をどうしたらよいか、大学の先輩である同友会の大城辰彦専務理事（当時）に相談したのがきっかけです。

横江さんが取り組んでいる子どもシェルターおきなわのチラシ

入会当初に新会員訪問で事務所を訪れた政策委員の仲地一史さんとの出会いから政策委員会に参加し、専門知識を生かして今年は那覇市への政策提言にも関わりました。

例会では、会員の皆さんが真剣に経営を学び合っている姿に感銘を受け、政策委員会では、経営者の皆さんの企画力・実行力を目の当たりにしています。

プライベートでは、ウチナームークで一児のパパ。趣味を伺うと「もう完全に、マラソンですね」とのお答え。ランニングクラブにも所属し、フルマラソンのベストタイムは二時間五一分四八秒！限界に挑戦し、きつさを乗り越えたときの達成感とタイムを伸ばす楽しみで、走ることが生活の一部になっています。

忙しい時ほど走りたくなってしまうそうで、仕事から完全に離れてリフレッシュできる貴重な時間にもなっているようです。

目下の課題は、我が子と過ごす時間の確保。仕事にもマラソンにも理解のある奥様に感謝しつつ、休日には海や公園に出掛けてお子さんと、やはり走っているそうです。

たくさんの大人と共に子どもを支える「大きな輪」を作りたい。その第一歩として仲間とともに子どもシェルターを開設した横江さん。その先に、全ての子どもが愛情に包まれながら夢と希望を持って健やかに成長していく社会を目指しています。（開法律事務所　望月弘子）

《会社概要》
美ら島法律事務所
弁護士　横江（よこえ）　崇（たかし）氏
〈那覇支部〉
所在地／那覇市泉崎2-10-3
泉崎つねビル303号
TEL／098-853-3871
事業内容／法律事務所
URL／http://www.churashima-law.jp/

「第12回雇用・就労支援フォーラム」ご案内

日　時　11月18日(土) 12:30～18:00
会　場　八重山合同庁舎（石垣市字真栄里在）
参加費　無料　※懇親会に参加される方は3,000円
共　催　沖縄県・石垣市

内　容
一、オープニング（12:30～13:15）　<於：沖縄県八重山合同庁舎>
開会式・体験発表
一、第Ⅰ部「基調講演」(13:20～14:20) <於：　〃　>
テーマ：Unlocking（鍵を開けろ）！
～「ICT治具」で障害者の新たな職域拡大を、川崎発！日本、そして世界へと！～
講　師：ダンウェイ㈱ 代表取締役
高橋陽子氏（神奈川同友会）

一、第Ⅱ部「分科会」(14:30～17:20) <於：沖縄県八重山合同庁舎・太洋リネンサプライ>
○第1分科会　支援する側の報告
○第2分科会　連携づくりパネルディスカッション
○第3分科会　雇用している企業の報告（見学、定員：20名）
一、第Ⅲ部「分科会報告・名刺交換会」(17:20～17:50) <於：沖縄県八重山合同庁舎>
一、交流・懇親会（18:30～20:00）　<於：ホテルグランビュー石垣>
懇親会費：3,000円

※申込や詳細については、同友会事務局（☎098-859-6205）へご連絡ください。

茶論

「たげぇにちばやびいらぁ！」（共々に頑張りましょう！）との力強い見出しが、一九八七年十月十五日号「中小企業家しんぶん」一面を飾った▼三十年前の十月三日、全国三十四番目で誕生した沖縄同友会が意気高く船出した模様を紹介している。会場の沖縄レインボーホテルには多くの来賓が出席し盛況であったとのこと。「復帰十五年、曲り角の沖縄経済にあって同友会誕生の意義は大きい」「企業は経営者の器で決まる。広い視野で切磋琢磨し成長したい」とは参加者の声。来賓は「地域経済発展は中小企業の成長がカギ」と激励。「学ぶ仲間をふやし早く千名会勢となって」等々の期待もあった▼初代代表理事に選出された糸数哲夫氏はじめ六十名で結成された沖縄同友会の創立総会は、新しき時代を切り拓く息吹きと緊張感がみなぎっていたとのこと▼いまや、約一二〇〇社の会勢となり取り巻く環境も大きく変わった。大学や金融機関との包括連携協定。行政・マスコミからの期待も大きい。経済界でも確固たる地位を築いたと思う▼中国に「飲水思源（井戸の水を飲む際には、その井戸を掘った人の苦労を思え）」との故事がある。沖縄同友会の目覚しい発展も多くの先輩方の努力があったればこそである▼さぁ創立の月。新たな思いで学び活動し自社と同友会の更なる飛躍を目指したい（仲地治）

第29回 輝く女性経営者のつどい

相手の気持ち・尊厳を尊重し、自立できるビジネスモデルを構築！

山田 貴子 氏

九月十二日、ザ・ナハテラスにおいて第二十九回輝く女性経営者のつどいが二九六名の参加者で開催されました。毎年、大きな注目を集めるつどいの講師ですが、今回は㈱ワクワーク・イングリッシュCEOの山田貴子氏を迎え「沖縄の貧困問題　解決のヒントがここにある！～学生企業家の発想がフィリピンの貧困問題を変えていく～」をテーマに講演して頂きました。

山田氏は、学生時代に訪れたフィリピンで、貧困にあえぐ子どもたちと本気で向き合ったことをきっかけに、「援助する・される」を越えた双方にメリットのあるｗｉｎ－ｗｉｎの関係を構築しようとオンライン英会話はじめコミュニティカフェ、美容院など、さまざまな事業を立ち上げ活動をスタート。現在は、フィリピンのみならず、日本の貧困問題にも取り組み、子どもたち主体の地域づくりにも注力。

若干、三十二歳の山田氏の発想は、貧困問題への新しいアプローチ、今までになかったビジネスや価値観を生み出すヒントがあふれていました。特に、従来なら寄付をするだけというスタイルから、支援される側の気持ちに寄り添い、彼らの尊厳を尊重し自立できるビジネスモデルを構築するという視点には、新たなビジネス発想の切り口として大きなヒントになったように感じました。

グループ討論で学びを深める参加者

現在では、「ワクワークセンター（子どものためのラーニングセンターと、職業訓練やインキュベーション機能を合わせた施設）」の設立に向け奮闘中との報告でした。

グループ討論でも活発に議論が交わされ、盛況のうちに幕を閉じた「輝く女性経営者のつどい」でした。（㈱カリタス・根橋理香）

金融機関との懇談会

新たな包括連携協定締結の動きも

金融機関との懇談会の一コマ

七月二十六日～八月十四日にかけて、毎年恒例の沖縄振興開発金融公庫、沖縄県信用保証協会、琉球銀行、沖縄銀行、沖縄海邦銀行、コザ信用金庫との役員顔合わせ・懇談会が開催され、同友会からは正副代表理事はじめ政策委員会等が参加しました。

今年度は、金融庁に森信親長官が就任し、金融行政方針が大きく転換されたこと、昨年、沖縄同友会が海邦銀行と包括連携協定を締結したことなどにより、いかにして連携を図っていくかという点が話題の中心となりました。

また、海邦銀行とコザ信用金庫については、初めて懇談会の後に、居酒屋での懇親会を実施。大いに盛り上がりました。

琉球銀行とコザ信用金庫については、包括連携協定締結に向けて具体的に動き出すことが確認されるなど、有意義な内容となりました。（事務局）

経営委員会 特別学習会

労働者が一人でも、協定届を!!

九月十九日、経営委員会「特別学習会」として、先日、新聞に取り上げられた36協定についての学習会を沖縄産業支援センターで三十四名の参加で開催。講師はオフィスあるふぁの青山喜佐子氏で、36協定結んでいますか？～残業には必要なルール～というテーマで講演。

熱心に話を聞く担当者の皆さん

36協定は、労基法三十六条に基づき、一日八時間（休憩除く）、週四十時間以上の時間外労働・休日労働をさせる場合は協定届を提出しなければならないという義務が付けられている。提出忘れ、違反した場合は、監督署から是正勧告を受けることになる。

「労働者が一人でもいて残業をさせる場合は、協定届を提出して、割増賃金を支払うこと」が大事なので覚えておいてほしいとのこと。県内でも四十％以上協定を締結していないので、これを機会に提出していない企業は、提出してくださいと呼びかけていた。

広報委員会 学習会

「不死鳥」が敗れる 大番狂わせの闘牛大会

台風一過の週末、広報委員会のメンバーを中心にうるま市石川で闘牛観戦を含めた学習会を行いました。参加メンバーのほとんどの方は私も含めて闘牛観戦は初めてでしたが、試合前の学習会の講師として闘牛実況アナウンサーこと伊波大志さんにお話しを伺いました。石川多目的ドーム隣の舞天館にて、闘牛にまつわるお話しはユーモアたっぷり、とても楽しく聞かせていただきました。

過去には県内で数か所の闘牛場がありましたが、現在は石川多目的ドームでほとんど大会が開催されています。

学習会場所の舞天館から試合が行われる隣りの石川多目的ドームへ移動の途中には昭和の名牛「ゆかり号」のお墓も見学しました。

すり鉢状の全天候型ドームでは、地元の有名なハンバーガーを食しながらこれから始まる十番を待ちました。牛にとってのデビュー戦や最近話題の闘牛女子オーナーの牛の対戦など、一分弱から十分以上かかる試合を観戦して楽しみました。もちろん伊波さんが会場内の実況をしていますが、外人の方が英語での実況案内もありました。

牛の入場を待つ見物者

お客様に女性の方も多く家族連れでも楽しめる雰囲気が印象に残っています。試合も最後の一番は今まで負けたことのない「不死鳥」という牛が敗れるという大番狂わせで幕を閉じましたが、参加者にとって事前学習会も含めて闘牛観戦を楽しめた一日となりました。

次回の広報委員会学習会は十月二十日を予定していますので、ぜひ皆さんご参加ください！（ファイナンシャル・ジャパン㈱　大浜博文）

沖縄の気になる数字 2

高収益低賃金体質

新聞に沖縄の企業は「利益率が高く人件費が低い構造的な低賃金体質がある」との記事が載っていました。日銀那覇支店による全国の中小企業との比較調査があり、①売上高に占める経常利益の比率は全国の二・七二％に対し、沖縄は四・五六％と約一・七倍。

②売上高に占める人件費の比率は全国の十三・五一％に対し、沖縄は九・五八％と一割に届かない。との結果でした。労使で稼いだ収入のうち従業員の給料に配分する割合が低く、利益として企業に残る割合が極端に高いとしています。

沖縄の観光客は過去最高を更新するなど経済全体は好調でも、平均賃金は全国最低で、生活保護世帯も過去最高を更新し、全体の繁栄が個人の豊かさに反映されない構造的問題を抱えていると分析しています。さらに、失業率は改善していますが、働く意欲のない非労働力人口が拡大中で、特に若い世代が働く意欲を失っているのが問題だと指摘しています。そして、働く意欲をそいでいるのは全国一の慢性的低賃金だと結論付けています。

ちなみに、この記事は二〇〇八年二月の日経新聞のものです。

オフィス星崎
代表　星崎浩二氏
☎098-911-1753

社長・社員共育塾　第3講

「労使の信頼関係」が重要！

平田 美穂 氏

九月十九日、沖縄産業支援センターにて社長・社員共育塾第三講が一二六名の参加人数で開催されました。中小企業家同友会全国協議会・事務局長の平田美穂氏を講師に「同友会がめざす『人間尊重経営』とは～人が輝く組織づくりの事例から学ぶ～」をテーマに報告。

一九五七年に日本中小企業家同友会として東京で創立して今年で六十年。当初は七〇〇名の会員数でしたが、今では四六〇〇〇社の会員数で全国で会勢を伸ばしてきた誇れる団体です。三つの目的や同友会活動を紹介する中で東日本大震災から企業が事業再生するときの教訓など人が育たない企業に未来はないと話されました。

また、同友会がめざしている「人間尊重経営」を取り組んでいる全国の事例を挙げながら、人材育成こそ企業発展の原動力になるとし、「労使の信頼関係」が大前提としたうえで、経理を公開し、社員から経営者や幹部が信頼され、労働環境の整備を計画的におこなっているかなどチェックポイントも紹介しました。

この後のグループ討論では、他社の社員さんの意見を聴くことで、自社の社員の気持ちに気がついたり、逆に、社員も他社の経営者の話を聞くことで、自社の社長に言われていることを受け入れられます。双方にとっても成長できるチャンスがあるのがこの研修会です。効果が得られると思いますので、一度見学してみませんか？

（事務局）

初・報道関係者との懇談会開催

お互いの意見交換する参加者

九月八日、八汐荘において、沖縄同友会としては初めてとなる報道関係者との懇談会が開催されました。報道関係者として、NHK放送局、琉球新報社、沖縄タイムス社の記者四名が参加し、同友会からは正副代表理事を中心に七名が参加しました。

報道関係者との懇談会については、この間、その必要性は確認していても実際に行われたことはなく、今回創立三十周年記念を機に実現することができました。

懇談会は、同友会から沖縄の三十年の歴史や活動を紹介。特によい経営環境をめざす取り組みとして「憲章」「条例」や「要望・提言」等の政策活動には、報道関係者の方からの質問がありました。その他、多岐にわたる同友会の例会・学習会についても、もっと外部発信ができないかと要望が出されました。

最後に、今後も定期的に開催していくことが確認されましたが、同友会としては、もっと幅広く報道関係者の皆さんと膝詰めの懇親ができる内容も検討していきます。

第4回　新人フォローアップ研修会

自分を知ることで自信がつき、成長に繋がる

九月二十五日、沖縄産業支援センターにて、第四回新人フォローアップ研修が百二十一名の参加で開催されました。今回の報告は「先輩からの体験報告」をテーマに、㈱御菓子御殿の比嘉誠太さん、総合包装㈱の新垣美沙季さん、環ハウスグループの平田一成さんの三名から報告頂きました。

㈱御菓子御殿の比嘉さんは、㈱御菓子御殿に入社して三年目。業務内容は、お菓子の製造や洋生菓子の製造・販売、レストラン業務があります。新入社員に求められているのはフレッシュさや新鮮な物事を考える観点が大事だと言います。何がしたくて働いているのか悩んでいた時に上司に相談し、会社の為、自分の成長の為に頑張ろうと思い、苦手な事から逃げずに自分の成長の為と思い苦手なことでも挑戦しています。

グループ討論での質問に回答する３名の報告者

総合包装㈱に入社して六年目の新垣さんは、同友会の合同企業説明会がきっかけで入社。二年目のときに多くの失敗を経験し、自信もなくなっていたが、一人のお客様との関わりを機に、人と人の繋がりの大切さに気づき、仕事に対しての姿勢が変わりました。今後の目標は、お客様の要望に応えたいとの思いから、会社に新たな部署を立ち上げたいと話しました。

環ハウスグループの平田さんは入社五年目。業務内容は主に賃貸管理を行っている。嫌なことも多く経験してきたが、夢や目標を持っていたことが、モチベーションや原動力になって乗り越えられたと話しました。伝えたい事として、自分を知ること。自分を知ることで自信を持つことができ、自信をもつことで行動に繋がり、行動から成長に繋がると話しました。（事務局）

南部支部例会

自立が自信と誇りを生む

２人の報告者を囲んで全員集合写真

「寝たきりになったとしても仕事がしたい。指一つでできる仕事を習得したい」と語るトマトプリントの新川貴之氏と「貴之君のおかげで自立をすることができた」と語る知念由紀代表を報告者に九月二十二日、南風原町中央公民館にて南部支部例会が二十四名の参加で開催されました。

新川氏は、ポンペ病という進行性の病気で、体を動かすことも困難ですが、自立したいという思いを人一倍持っており、一人暮らしをしながらDTPデザイナーとして働いています。新川さんに仕事を任せることで知念代表は営業ができるようになり、下請業から脱却。モノづくりが好きな新川さんと味のある活版印刷が好きな知念代表とでオリジナル商品を生み出します。このことにより知念氏は父である創業者からの自立も志します。

中小企業は、元請からの自立、先代からの自立、社員の自立と様々な自立が考えられます。そんな自立が必ず企業や経営者、社員の自信に繋がっていくということをこの例会で学びました。その後、グループ討論で意見や学びを参加者同士で深め合いました。（上原登貴子税理士事務所・上原登貴子）

ビジネス連携部会って?!

Q. なぜ４つの業種部会が統合されるの？

A. 今後益々変化の激しい経営環境おいて、各業種・企業では、地域の多様なニーズに応えるために、より高度なサービス、より良い商品の開発が不可欠となり、県全体の産業振興の観点からも異業種間のさらなる協力・連携が重要な課題となります。そのため業種四部会連絡会では、2015年度より部会の統合について議論を重ね、第６次中期ビジョンで、「４つの業種部会の連絡会機能を充実させ、連携強化に向けて、組織改革を検討します」を方針に掲げました。そして、今年度四部会の運営委員会を同時に開催する中で、新部会のあり方や活動方針について議論を深めてきました。

Q. 統合したらこれまでの部会の活動はどうなるの？

A. すでに会員企業間でビジネス協力・連携が取り組まれており、成果を生んでいる事例の紹介など、企業経営に必要な情報交換や学びを積極的に行うことが異業種間連携には求められています。そのために、各業種はそれぞれの課題を整理・深堀しつつ、委員会としてこれまで通り活動し、部会全体としては、各業界の共通の課題に対して連携機能を充実・強化させます。

Q. 新しい部会の名称は？

A. ビジネス連携部会「ゆいま～る」（予定）です。

新部会設立総会の詳細は下記のとおりです。ぜひ参加してみませんか。200社の部会を目指しています。ぜひ多くの企業とのビジネス連携を模索してみませんか？

とき　10月25日（水）18:30～21:10
ところ　沖縄産業支援センター　１Ｆ
内容　※第Ⅰ部は業種部会会員が対象です。
第Ⅰ部「各部会　総会議事」（18:00～18:20）
第Ⅱ部「異業種連携部会設立総会」（18:30～18:55）
第Ⅲ部「記念講演」（19:00～20:00）
テーマ：デジタルを活用した新しい産業連携のしくみづくり
講　師：沖縄県農政企画統括監　玉那覇靖氏
第Ⅳ部「懇親会」（20:10～21:10）　参加費：2,000円

設備投資に係る　税の優遇制度
＜3つのポイント＞
☑県内事業者・県外事業者を問わず活用できます！
☑５年以内に購入した資産が対象となる場合があります！（＊）
（＊）但し、産業高度化・事業革新促進地域制度は除く。
☑赤字でも優遇制度を活用できる場合があります！
沖縄には、設備投資に係る税の優遇制度として、特定の地域や特区が指定されています。
①観光地形成促進地域　②産業高度化・事業革新促進地域　③情報通信産業振興地域・特別地区
④国際物流拠点産業集積地域　⑤経済金融活性化特別地区
沖縄特区・地域税制活用 ワンストップ相談窓口
TEL：０９８-８９４-６３７７
E-Mail：okitoku@okinawa-ric.or.jp
URL　https://www.zei-tokku.okinawa/
（公財）沖縄県産業振興公社　経営支援部　事業支援課
沖縄特区税制利活用促進事業
営業時間　8：30～17：15（土日、祝日を除く）

農家を大事にするシステムを構築したい

山原 博之 氏

「モリンガ」というと何が思い浮かぶでしょうか？「国？有名人の名前？」思い浮かぶのは人それぞれだと思いますが、「モリンガ」とは九十種類以上の栄養素が体の調子を整え、本来あるべき状態に戻してくれる奇跡のような植物の名前です。

今回はそのモリンガの第一人者、石垣島モリンガ合同会社　代表社員の山原博之さんにお話を伺いました。

「モリンガを知ったのは石垣島に移住してきた六年前。妻の体調不良を治そうと地元の食材を色々調べていたのがきっかけでした」。たまたま市場に出されていたモリンガと出会い、その栄養の豊富さと期待できる効用の凄さに「この植物をなんとか広めたい」という思いを持ったことから、山原さんのモリンガへの本格的な取り組みが始まります。「石垣島はモリンガにとって絶好の場所。沖縄本島では年間五、六回の収穫だが、石垣島では毎月の収穫が可能。販路の拡大は十分見込めるので、今後は生産者の確保と拡大が課題です」。

「モリンガ」の商品たち

作り手となる農家を大事にするシステムを構築したいと話す山原さん。

顧客層は、自分自身の体への投資と考えている余裕のある四十～六十代が中心だとか。

「それだと同友会メンバーはとてもマッチしているのでは？」との問いに、「全く、その通りです。飲む機会の多い方達だけに、本気でおすすめしたい」と、笑顔でのお答えでした。

取材に伺った際、ついつい試してみたくなってモリンガ酵素青汁を購入。早速試してみよう！

（有）PLAN tPLAN 宮良高彰）

石垣島モリンガ（同）
〈八重山支部〉
代表社員　山原（やまはら） 博之（ひろゆき） 氏
所在地／石垣市字登野城 217
ＴＥＬ／0980-83-1655
事業内容／食品加工（モリンガの栽培・生産・加工・卸売、モリンガの商品開発・商品化）
ＵＲＬ／http://www.ishigakijima.ne.jp/

第45回 青年経営者全国交流会 in 茨城
青年経営者の全国大会でも、大勢の先輩経営者も参加し、学び深い大会！

九月十四～十五日の日程で中小企業家同友会全国協議会主催の「第四十五回青年経営者全国交流会」一二〇四名の参加で茨城県で開催されました。次年度は沖縄で開催ということもあり、大会への準備への取組みや熱意などを体験し、地元開催への準備に持ち帰ろうと、沖縄から四十三名が参加しました。

一日目の分科会では、沖縄から㈱琉球補聴器の森山賢社長が報告。ご自身の生い立ちから後継者の葛藤、入社してから経営者としての覚悟と社員が輝く企業を目指して取り組んでいることを報告しました。その後のグループ討論では、全国各地から参加している同士のレベルの高さに驚かされるのと同時に、多くの課題が見つかりました。

二日目は特別報告と記念講演でこの大会の学びをさらに深めました。

以下、参加者からのアンケートを掲載。

・会社を良くする、業績を上げていくには、経営者と社員のコミュニケーションが大事。社員にも経営理念の理解、目標を持たせることの重要さを知りました。社員側として参加しましたが、経営者が抱える悩みや問題を知り、経営者からの一方的な考えを伝えるのではなく、社員側からも積極的にコミュニケーションをとり、問題を解決していきたいと思いました。

・よい会社　よい経営者を目指すためにも、経営者が夢・想いを持ち続けることが大切。会社（社員）と共有するためにも日頃からコミュニケーション、向き合うことが大切だと改めて感じた。

・金砂郷食品の永田社長の話は感動しました。改めて夢を持つこと、未来に挑戦していくことなど、大切なことを思い起こさせていただきました。

八巻茨城大会実行委員長からバトンを受け取る高木実行委員長

懇親会の舞台でPR

青年経営者対象の大会だと思われがちですが、経験豊富な先輩経営者の皆さんにも学び深い内容です。ぜひ来年十一月二十九～三十日の沖縄大会に参加してみませんか！

読者の声

毎回「ニライみらい」を楽しみにしています。各支部例会等の情報はもちろんのこと、経営者のインタビューなど為になる記事が盛り沢山です。

先日の例会で名刺交換させていただいた、のんびり～とした雰囲気の方が一面の「21世紀に輝く」に載っていて、「こんな苦労をされて来られたのか、こんな風に取り組まれているのか」と深く感銘を受けたこともありました。

会員企業の方を深く知ることもできる「ニライみらい」を今後も楽しみにして、更なる同友会活動に参加していきたいと思います（㈱巽エンタープライズ・洲鎌誠）

フェイスフェイス 290

宮園（みやぞの） 幸広（ゆきひろ） さん
㈱ワークシステム
（会員：取締役常務　江頭昇一郎氏）
〈浦西支部〉
所在地／宜野湾市字大謝名 3-5-13
ＴＥＬ／098-870-2065
事業内容／内装仕上業（商業施設の企画・設計・施工・監理）

商業施設や住宅の企画、設計、施工等を業務内容とする㈱ワークシステムの宮園幸広さんにお話を伺いました。

㈱ワークシステムに入社される前は県外で二年ほど働いたのち沖縄へ帰沖し、現在入されて十二年のベテラン社員。入社されたきっかけは二つあり、宮園さんがやりたい仕事内容だったこと、「中小企業であることが魅力」だったと。どこが魅力なのか聞いたところ「大企業では出来ない仕事も中小企業ではできるし、仕事を幅広く学べることができるのも魅力」だと話します。仕事をしてて嬉しかったことは、一つの物件でもお客様の要望に応えられたこと、手掛けた店舗が繁盛していると仕事のやりがいを感じると。今後の目標として飲食店を中心に魅力のあるデザインと繁盛する店舗を手掛けていきたいと。また、沖縄に貢献したい気持ちがあり、設計業として沖縄の良さを盛り込んだ店舗づくりをして、インバウンドの方や全国の方に沖縄ならではの魅力を伝え、観光産業に貢献し、沖縄を盛り上げていきたいと話していました。

初めての取材で緊張していましたが、快く取材を引き受けていただいた宮園さん、とても親しみやすく、人柄の良さが溢れる方でした。（事務局）

文進印刷株式会社
本　社／〒901-0416　沖縄県島尻郡八重瀬町字宜次706-4
TEL (098) 996-3356 (代)　FAX (098) 996-3357
那覇営業所／〒902-0074　沖縄県那覇市字仲井真201番地18　TEL (098) 855-2323 (代)　FAX (098) 996-3357
浦添営業所／〒901-2111　沖縄県浦添市経塚811-14　TEL (098) 879-9303 (代)　FAX (098) 996-3357
宜野湾営業所／〒901-2224　沖縄県宜野湾市真志喜2丁目4番16 コーポ下地203号　TEL (098) 898-1055 (代)　FAX (098) 996-3357
沖縄営業所／〒904-2165　沖縄県沖縄市宮里２丁目１番３号　TEL (098) 937-8607 (代)　FAX (098) 996-3357
糸満営業所／〒901-0306　沖縄県糸満市西崎町3丁目510番地110　TEL (098) 994-5777 (代)　FAX (098) 996-3357
うるま営業所／〒904-2215　沖縄県うるま市具志川みどり町3-19-5　TEL (098) 973-5676 (代)　FAX (098) 996-3357
平成19年２月６日、個人情報保護のための仕組みである、JISQ15001:2006（プライバシーマーク 認定番号24000306(04)）を取得いたしました。
＜南部支部会員＞